

令和3年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる「共同利用型」の個人による研究 研究報告書

令和4年4月30日現在

研究課題名	1930年代のソ連の極東戦略	
申請者	氏名	所属機関・職
	花田 智之	防衛研究所・主任研究官

研究成果の概要

1930年代のソ連の極東戦略を外交と安全保障の観点から分析した。特に第2次5カ年計画に基づく極東ソ連軍（赤軍）の近代化や軍備増強の実態について、北海道大学図書館に所蔵されたザバイカル軍管区、極東軍管区、太平洋艦隊関連の研究史料などを用いて調査研究を進められた。また、極東での集団安全保障体制について、同館に所蔵された中ソ関係史料集やソ蒙関係史料集などを用いて調査研究を進められ、ソ連指導部が中国国民政府との中ソ不可侵条約及びモンゴル人民共和国とのソ蒙相互援助議定書の締結を通して、対日強硬姿勢を固めたことを明らかにした。中でもモンゴル人民共和国との軍事協力の深化は、ソ蒙関係を軍事同盟に近いものに発展させ、1936年4月には、モンゴル領内へのソ連軍の駐留が開始され、ザバイカル軍管区の第57特別軍団がウランバートルの防衛を担当することになった。同軍団が1939年のノモンハン事件時のソ蒙軍の基幹部隊になったことに鑑みると、モンゴルとの軍事協力の深化がソ連の極東戦略として有効に機能した一方、隣接する満洲国との国境紛争及び軍事衝突に大きな影響を与えた。また、同議定書の締結は、モンゴル人民共和国が国際社会に対して法的主体であることを示したという意味でも、極東の安全保障環境に大きな意義をもたらした。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）※謝辞の有無について明記願います。

- ・花田智之「ソ連の極東戦略と国際秩序」防衛研究所編『令和2年度戦争史研究国際フォーラム報告書』（2022年2月）79-95頁。謝辞無。
- ・HANADA Tomoyuki, "The Soviet Far Eastern Strategy and International Order," *2020 NIDS International Forum on War History: Proceedings*, February 2022, pp. 83-101. 謝辞無。
- ・花田智之「日ソ衝突から学ぶ現代史的意義：ノモンハン事件」『中央公論』2021年9月号。54-61頁。謝辞無。

当該研究活動をもとに採択された研究プロジェクト（応募中の研究プロジェクトを含む）